

# 挑戦 継続 感謝

第4号 文責：中尾

## 勇往邁進 岩中史上まれに見る大激戦の末に…

5月29日（木）に令和7年度体育祭を開催しました。平日にもかかわらず、多くのご来賓と保護者の皆様にお越しいただき、心より感謝申し上げます。当日は天候にも恵まれ、おかげさまで無事に体育祭を終えることができました。

今年の体育祭のテーマは『勇往邁進』。意味は、目標に向かって臆することなくまっしぐらに進むことです。このテーマの下、赤組と白組がそれぞれ三冠制覇という目標に向かってがっぷり四つに組み合い、岩中史上まれに見る大激戦を展開しました。観ている人たちにとっては、最後までどちらが勝つかわからない最高に面白い体育祭になったと思います。

結果は、競技部門は880点对860点とわずか20点差で白組が勝ち、応援部門は審査員6名の合計点がわずか1点差で赤組が勝ちました。そして総合部門は、なんと赤白の合計点が同点となり、規定により競技優勝の白組が総合優勝を勝ち取り、大優勝旗を手にしました。私自身、これまで中学校の体育祭を何十回も観てきましたが、全ての部門がこれほど僅差の勝負になった体育祭はちょっと記憶にありません。両組とも本当に素晴らしい戦いを見せてくれました。どちらもあっぱれ、まさに全員優勝です。

最後に、今年の体育祭の開催にあたりご尽力いただきました全ての皆様に感謝申し上げます。おかげさまで最高の体育祭を開催することができました。ありがとうございました。



## いのちについて考える

大阪・関西万博にある8つのシグネチャーパビリオンのうちの1つに『いのち動的平衡館』があります。修学旅行の際、私は運良くこのパビリオンに入ることができました。このパビリオンのテーマは、いのちを知る。プロデューサーは福岡伸一氏。多数の著書がある有名な生物学者です。彼は多くの著書の中で、生命について次のように語っています。

物質(非生命体)は宇宙の大原則であるエントロピー増大の法則(秩序あるものは無秩序になる方向にしか変化しない)に身を任さざるを得ないが、生命だけはこの法則にあらがっている。細胞内で絶えず分解と合成をくり返し、自らの体を常に作り替え続けることで新たな秩序を構築している。分解と合成という相反することを同時に行い、しかも分解を先回りして行うことで、エントロピー増大の法則により本来物質が下る坂を上り返している。このことを『動的平衡』と言い、この動的平衡の行き着く先は利他性である。生命は太古の昔から利他性によって受け継がれてきており、死もまたいのちをつなぐ利他である。

私は、どちらかという生命や遺伝子は利己的であるというイメージを持っていたので、彼の生命論を初めて知ったときは大きな衝撃を受けました。同時に大きな魅力を感じ、生命の持つ利他性について深く考えるようになりました。動的平衡の概念は中学生にとっては少し難しいかもしれませんが、将来1人でも多くの生徒がこのことを理解できるといいなあと思います。それが壊れかけている地球を救うきっかけになると思うからです。まずは「利他」の意味について、自分で調べてみてください。

私たちはどこから来てどこへ行くのでしょうか。

生命とは、絶えず自らを壊しながら作り続ける、うつろいゆく流れの中の一時的な存在です。

そして、そんな一時的な存在であるいのちは、途切れることなく受け継がれてきました。

38億年前、生命が生まれたときから、その物語は始まります。

それは、生き残りをかけた争いの歴史ではなく、いのちをつなぐ協力の歴史なのです。

小さな細胞が大きな細胞の中で生き続ける。

たくさんの細胞が協力し合う。

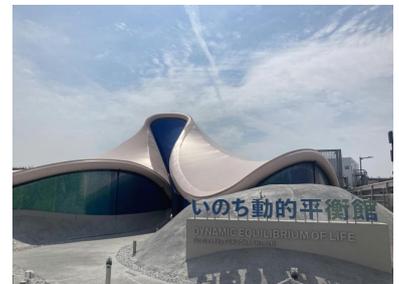
異なるいのちが出会い、次のいのちが生まれる。

こうして、利己よりむしろ利他によって、多様ないのちが生まれたのです。

海に。陸に。空に。

動物も植物も。微生物も大型生物も。

私たちがまた、こうして途切れることなく紡がれてきた、多様ないのちの流れの中に連なっているのです。



(参考文献：君はいのち動的平衡館を見たか 利他の生命哲学 福岡伸一 朝日出版社)

## 6・7月の主な行事予定

6月19日(木) 第1回定期テスト②	8日(火) 全校評議会
20日(金) 全校評議会	14日(月) 委員会・学年評議会
24日(火) 委員会・学年評議会	16日(水) 給食最終日 大掃除
30日(月) 全校三者面談①	おむすびスポットの日
7月 1日(火) 全校三者面談② SNS講演会	17日(木) 終業式
2日(水) 全校三者面談③	18日(金) 夏季休業(～8/29まで)
おむすびスポットの日	26日(土) 高柳地区夏祭り(岩中甚句&ソーラン発表)